

新規・継続等	新規	分野	森林を育成する治山		事業番号	34	事業名	水源地域等保安林整備 (奥地保安林保全緊急対策)				
市町村名	朝日村		ふりがな 箇所名	のまたさお 野俣沢		事業年度 (完了年度は見込み)		H23 年度 ~		H27 年度		
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	山腹工12.78ha(土留工6個、航空実播工12.78ha、)森林整備65.00ha					H22年度末事業進捗率		0%			
	H23年度以降残実施内容	同上					本工事費等ベース		0%			
	H23年度実施内容	森林整備5.87ha					用地補償費ベース		-			
	年度	全体事業費		H21年度まで		H22年度		H23年度		H23年度以降残		
	事業費計(千円)	327,500		0		0		18,000		327,500		
財源内訳	国庫支出金	150,000		0		0		8,250		150,000		
	その他											
	県債	159,750		0		0		8,775		159,750		
	一般財源	17,750		0		0		975		17,750		
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価			部	政策評価課			
								ランク	評点	ランク	評点	
	(20)	必要性	保全対象人家	10戸以上	1~9戸	0戸				0		0
			保全対象公共施設	2箇所以上	1箇所	なし				3		3
			保全対象に弱者施設があるか	重要施設	一般施設	なし			B	0	B	0
			保全対象(保安林・林業用施設)	「広域基幹林道、又は利用区域500ha以上の林道又は保安林率50%以上	保安林率30%以上50未満又は流域対策上保全すべき森林あり	保安林率30%未満				7		7
			小計							10		10
	(15)	重要性	過去の災害履歴	過去5年に1回以上	災害履歴地	なし			A	5	A	5
			交通遮断による地域経済などへの影響	大	中	小				3		3
			防災計画上の位置づけ	あり	なし					5		5
			小計							13		13
	(20)	効率性	費用対効果(B/C)	B/C2.0以上	B/C1.0以上2.0未満	B/C1.0未満			B	10	B	10
			早期発現度	3年未満	3年以上5年未満	5年以上				0		0
			流域の総合調整	あり	なし					3		3
			小計							13		13
	(25)	緊急性	最寄の保全対象までの距離	50m未満	50m以上200m未満	200m以上			A	7	A	7
			平均渓床勾配(平均山腹勾配)	10°以上(30°以上)	5°~10°未満(20~30°未満)	5°未満(20°未満)				6		6
			下流の堰堤等の整備状況(他所管含む)	なし	あり(概ね満砂)	あり(ポケットあり)				3		3
			危険地区危険度	Aランク	Bランク	Cランク				7		7
			小計							23		23
(20)	計画	地域からの要望	地域住民活動強い	市町村要望有り	特に要望ない				7		7	
	熟度	事業情報の共有	関係者以外にも周知	関係者中心に周知	特に周知していない			B	3	B	3	
		住民参加の状況	住民が直接参加	住民市町村意見を反映	住民意見反映していない				3		3	
		小計							13		13	
費用対効果(B/C)		2.38		評価の合計				B	72	B	72	
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	鎖川の源流域では戦後の過伐で流域の荒廃が進み、昭和58年の台風では流域に多くの被害が出た。その後治山事業により、平成4~16年にかけて治山事業で崩壊地の復旧に努めたが、全ての崩壊地を緑化するに至らずに事業を終了した。しかし、その後平成18年7月豪雨等の影響により未着手の崩壊地が拡大を続けて土砂流出は止まらない状況であり、村民や登山者から崩壊地対策の要望が上がってきた。										
	地域からの要望経緯	源流部からの土砂の供給が止まらないため、下流部の用水路に土砂が詰まるなどの被害がでている。また、崩壊の影響で林道や登山道にも被害が及ぶ恐れがあるため、朝日村村長を筆頭に地元(朝日村、松本市今井財産区)からは、平成20年から毎年、林道野俣沢線の安全確保に対する強い要望があり、平成20年8月には県議会への事業採択の陳情も行なわれている。										
	事業説明等の経緯	事業要望があった時点で、地元朝日村及び地権者である松本市今井財産区の役員に対しては、今後の県の事業採択の手順などを説明し、土地及び林道の使用了承を得ている。また、地元役場の担当者で現地にて検討し、施工方針や工法などについても合意を得ている。										
	環境・景観への配慮項目	緑化工に使用する種子は在来植生を中心とした配合とし、さらに在来植生の導入を積極的にを行い遺伝子が乱にも配慮する。森林施業に関しても自然環境の保全を最優先にして自然遷移に委ねた「天然林」を目標林型として誘導していく。										
	他事業・プロジェクトとの関連	林道施設に影響を及ぼしている崩壊地の復旧について、林道工事との調整を行っている。										
特記事項	鉢盛山は頂上からの眺望も素晴らしいことから、軽登山の対象として多くの登山者が訪れている。しかしながら、平成16年・18年の災害以降に崩壊地が拡大しており、崩壊地上部は尾根筋の登山道へまで迫ってきており崩壊の拡大を食い止めることが急務である。											
地域の合意形成	全員賛成		概ね賛成		過半数賛成		動向不明		その他			
部意見	野俣沢一帯は朝日村の重要な水源地であるが、平成16・18年の豪雨災害以降崩壊地が拡大し土砂流出が止まらないため、早期復旧が求められている。				政策評価課意見		重要性、緊急性が認められる。					